資料No.4

令和6年度

環境基本計画取組指標達成状況報告

三条市

環境基本計画取組指標達成状況

■ 重点的取組

① 脱炭素社会の推進

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
1 環境配慮型の消費行動の推進	(1) 市民の行動変容につながる取組の推進	公共施設における再生可能エネルギーの利用の拡大	再生可能エネルギー利用施設数	16件	16件	17件	17件	18件	22件	R７年２月から新たにグリーンスポーツセンターで三条保内発電所で発電された電力の利用を開始し、R６年度の目標を達成することができた。今後も公共施設の電気使用状況等を把握し、電気事業者（株式会社UPDATER）からの電気料金の算出及び現状との比較資料などの精査を行い、新たに導入候補となり得る施設の選定を進める。
	(2) 企業の脱炭素に向けた取組の支援	企業向け説明会の開催及び情報提供	中小企業版SBT認証取得企業数	－	－	10社	0社	20社		中小企業版SBT認証の取得に係る補助制度を創設したが、多くの地域企業にとって脱炭素経営の意識が浸透していないこと、また、必要性を認識していても認証取得費用の大幅な高騰によって取得を躊躇したことなどが主な要因となり、補助金の交付実績がなかった。 地域企業に脱炭素経営の意識が浸透するよう努めるほか、中小企業版SBT認証の取得に係る支援を充実させ、その活用等を促していく。
2 既存資源の有効活用	(2) 森林資源の有効活用	木質バイオマスの利活用の推進	間伐材、林地残材等の利用量	5,922t/年	6,045t/年	10,000t/年	7,445t/年	10,000t/年	10,000t/年	森林経営計画による森林の整備を進める中で、未利用材の活用が図られるよう、新たな森林経営計画の作成を支援する。

② 住み続け選びたくなるまちの実現

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
1 持続可能な社会の基盤づくり	(1) 農地・里山環境の保全	環境に配慮した農業の推進	農薬・化学肥料５割低減特別栽培取組面積及び有機農業取組面積	390ha	390ha	410ha	367ha	410ha	510ha	環境に配慮した有機栽培米・県認証特別栽培農産物の取組面積はR５年度と比較し減少した。農業者への周知を拡充し、環境に配慮した有機栽培米・県認証特別栽培農産物の取組面積の拡大を図る。
	(2) 総合的な空き家対策の推進	空き家バンク制度の運用	売却、賃貸借がなされたものの件数及び市による整備件数	42件/7年	41件/年	10件/年	48件/年	50件/年	70件/6年	R６年度で最終年度の目標値である６年間累計70件を達成できた。R７年度以降も空き家・空き地バンクの制度周知及び所有者、利用希望者間のマッチングを進めることで成約を増やしていくほか、R10年度までに移住促進住宅の整備を７棟進める予定である。

③ 環境啓発・環境教育の充実

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
1 裾野を広げる環境啓発の推進	(1) 市民、事業者への環境啓発	かんきょう庵における環境学習及び体験型イベントの開催	かんきょう庵における講座及びイベントの参加者数	2,049人/年	1,873人/年	2,000人/年	1,414人/年	2,000人/年	2,500人/年	新たなイベントを開催したが、既存イベントや講座の参加者が減少した。新たなイベントや講座を企画するとともに、周知方法などを見直し効果的な情報発信を行う。
2 未来を創る環境教育の推進	(1) 小学校などにおける環境学習の推進	エコクラス認定制度の継続	エコクラス認定数	37クラス/年	28クラス/年	39クラス/年	17クラス/年	40クラス/年	40クラス/年	校長会等でエコクラスを活用した環境学習の取組事例を紹介するなど周知の回数を増やすことで新たに取り組む学校があったものの、カリキュラムの変更等により取組を見送った学校もあり目標値を大きく下回った。出前環境教室のメニュー増加やクラス単位に限らない申込みを呼び掛ける。
	(2) 体験型環境教育の推進	体験型環境教育の充実	体験型講座への参加者数	216人/年	216人/年	300人/年	203人/年	300人/年	300人/年	市主催の体験型講座エコキッズ探検隊では、天候条件により屋外での開催ができず、２回中止となった。開催内容や開催場所を見直すとともに、学校行事を考慮した日程調整を行う。

環境基本計画取組指標達成状況

■ 従来からの継続した取組

① 自然環境の保全と創造

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
1 誰もが親しめる水辺空間の確保	(1) 親水性のある水辺空間の活用	水辺に生息する動植物の保全活動及び各種レクリエーション・イベントの検討	水辺に生息する動植物の保全活動及び各種レクリエーション・イベントへの参加者数	90人/年	15人/年	100人/年	18人/年	100人/年	240人/年	例年どおりのイベントにより参加者は少なかったが、水量の影響等を受けることなく、開催することができた。 今後も市の広報等により、イベントの周知を行う。

② 生活環境の保全

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
6 ごみの減量及び再利用・リサイクルの推進	(2) ごみ減量化の推進	ごみの発生抑制・再利用・リサイクルに関する意識啓発	ごみの排出量	38,555t/年	36,264t/年	36,257t/年	34,989t/年	34,244t/年	34,344t/年	人口減少により自然体のごみ排出量は年々減少しており、市民１人当たりのごみの排出量も減少傾向であることから、より一層の減量化を進めるため、ごみの分別と3Rの更なる広報活動を行う。 【参考】市民１人あたりごみ排出量　1,046g/日（R6実績）
			一般廃棄物（ごみ）のリサイクル率	13.3%	13.7%	14.1%	13.8%	14.1%	14.1%	R5年度と比較し、一般廃棄物のリサイクル率は増加傾向であるが、リサイクル促進のため、更なる広報活動を行う。

③ 快適環境の保全と創造

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
2 誰もが気持ちよく暮らせるまちの形成	(2) 環境美化活動の推進	まち美化ボランティア制度の普及促進及び市民との協働によるまち美化事業の推進	まち美化ボランティア登録者数	2,232人	2,179人	2,250人	1,932人	2,100人	2,500人	新たな団体等の登録により団体数は増加したが、登録を継続している団体の中での活動者の減少に伴い、R５年度と比較し全体の登録者が減少した。 新たな活動団体が増加するよう普及促進のため、スポーツごみ拾い大会参加者に周知チラシを配布するなど、更なる広報活動を行う。

④ 地球環境への貢献

小項目	主要施策	主な取組	指標	現状値（策定時）	実績値（R5年度）	目標値（R6年度）	実績値（R6年度）	目標値（R7年度）	目標値（最終年度）	評価・今後に向けた取組
2 地域から地球環境の保全への貢献	(1) 地球温暖化防止に向けた市の率先的な取組	地球温暖化防止実行計画に基づく取組	公共施設関係の二酸化炭素削減率 ※基準年2013年 15,800t-CO2との比較	~~24~~% 23%	14%	32%	省エネ法算定数値集計中	35%	50% ※目標年度2030年	二酸化炭素排出量増加の主な要因は電気使用量の増加であることから、施設内の不要な照明の消灯など、日常における取組を継続する。 また、電気使用量における二酸化炭素排出量の算定で使用する電気事業者別排出係数が比較的低い再生可能エネルギーを公共施設で使用することにより、二酸化炭素排出量の削減が見込まれることから、導入施設の拡大を図っていく。

※ 現況値は令和3年度末における実績値、目標値（最終年度）は令和10年度における目標値

※ 個別計画の改定や事業変更などにより、修正した箇所については赤字表記としております。